

環境行動学への招待(社会学)

「少子化と日本の未来」

上村泰裕 (kamimura@lit.nagoya-u.ac.jp)



Wilhelm von Humboldt (1767-1835)

高校と大学の違いは？

「〔高校までの〕学校というものは出来あいで解決済みの知識を学ぶところであるのに対して、大学は、学問をつねにいまだ完全に解決されていない問題として、したがってたえず研究されつつあるものとして扱うところにその特色をもつものである。」

(フンボルト「ベルリン高等学問施設の内的ならびに外的組織の理念」1810年)

高校と大学の違いは？

「したがって、大学の教師と学生の関係は、
〔高校までの〕学校におけるそれとは全く違
う。大学の教師は、学生のためにそこにいる
のではない。教師も学生も、学問のためにそ
こにいるのである。」

(フンボルト「ベルリン高等学問施設の内的ならび
に外的組織の理念」1810年)

社会学はどんな学問か

- ◆ 社会学は、人々のあいだの《関係》に着目して社会現象や社会問題を解明しようとする学問。
- ◆ 研究領域は、家族、教育、産業、地域、福祉、環境、政治、経済、宗教、科学技術、メディア…。

社会学的想像力を身につけよう

- ◆ 朝、一杯のコーヒーを飲みながら新聞に目を通す。
- ◆ そのコーヒーは、グローバルに展開する資本主義のシステムを通じて地球の裏側の国々とつながっている。
- ◆ 一方、戦争や政変や危機や災害を報じる記事の陰には、私たちとよく似た無数の家族や恋人たちが住んでいる。

社会学的想像力を身につけよう

- ◆ 身近な出来事を広い文脈と結びつけて考える能力(ミクロからマクロへ)。
- ◆ 広い世界の出来事を身近な問題として考える能力(マクロからミクロへ)。

おすすめの入門書

- ◆ 見田宗介『社会学入門——人間と社会の未来』
(岩波新書、2006年)
- ◆ 山崎正和『社交する人間——ホモ・ソシアビリス』
(中公文庫、2006年)
- ◆ 菅野仁『ジンメル・つながりの哲学』
(NHKブックス、2003年)
- ◆ 竹内洋『社会学の名著30』
(ちくま新書、2008年)

おすすめの「名著」

- ◆ デュルケーム『自殺論』(中公文庫、1985年)
- ◆ ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(岩波文庫、1989年)
- ◆ ハーバーマス『公共性の構造転換』(未来社、1994年)
- ◆ オルテガ『大衆の反逆』(ちくま学芸文庫、1995年)
- ◆ マンハイム『保守主義的思考』(ちくま学芸文庫、1997年)
- ◆ ウィリス『ハマータウンの野郎ども』(ちくま学芸文庫、1996年)
- ◆ パットナム『孤独なボウリング』(柏書房、2006年)
- ◆ ベック『危険社会』(法政大学出版局、1998年)

⇒むずかしそう…と思う人は「新書で読める社会学」から。

名大文学部の社会学者たち

- ◆ 西原和久教授…自我や相互行為に関する現象学的社会学から出発してアジアと世界の現在を捉える社会理論を構想。
- ◆ 田中重好教授…ねぶた祭りの盛り上がりやスマトラ島アチェの地震災害復興のなかに人々の共同性のかたちを発見。
- ◆ 丹辺宣彦教授…階層社会に拮抗してゆるやかなネットワークを形成しようとする人々の集合行為の可能性に注目。
- ◆ 上村泰裕准教授…アジアの地域統合と国内の地方分権が進む時代にふさわしい新しい福祉のあり方を提言。

福祉社会学のすすめ

- ◆ 「人々がどんなふう to 助けあい、協力しあっているか」を明らかにする。
- ◆ 「どんな意見対立があるか」に注目する。賛成反対を決める前に、まず理解する。
- ◆ 「どうなっているか」を分析するだけでなく、「どうすべきか」についても考える。

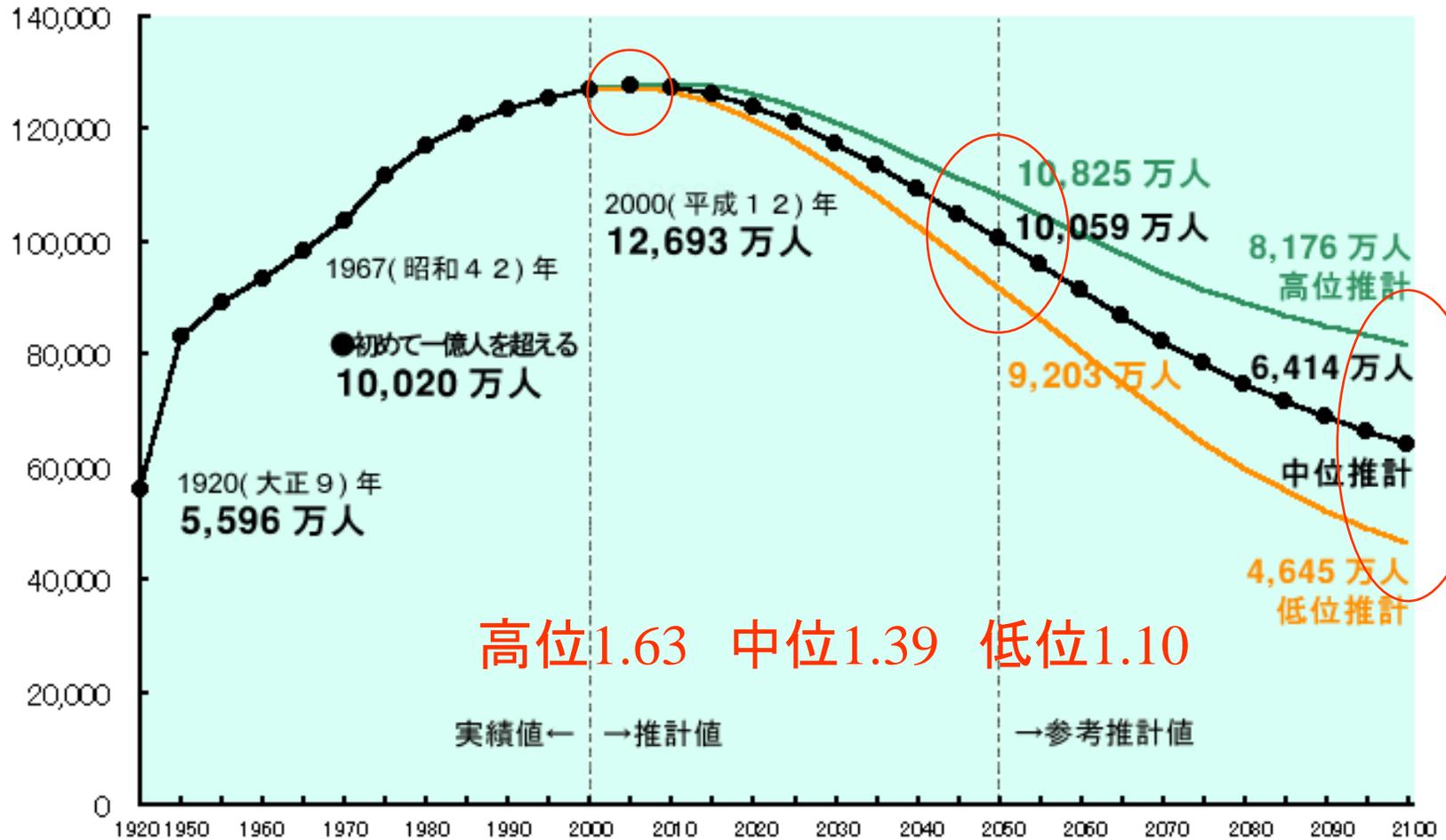
どんな人に向いているか

- ◆ 公務員や議員になって、自分の町の保育園や在宅介護を良くしたい人。
- ◆ ジャーナリストになって、年金問題や格差問題について論陣を張りたい人。
- ◆ 福祉NPOを立ち上げて、高齢者や障害者の活動を支援したい人。
- ◆ 日本の未来を見通して政策提言できるような社会学者になりたい人。
- ◆ 考える人よ来たれ。観察し、分析し、行動し、提案できる人になろう。

少子化と日本の未来

- ◆ 子どもが減るとどうして困るのか？
- ◆ どうして子どもが減ってきたのか？
- ◆ それではどうしたらよいのか？

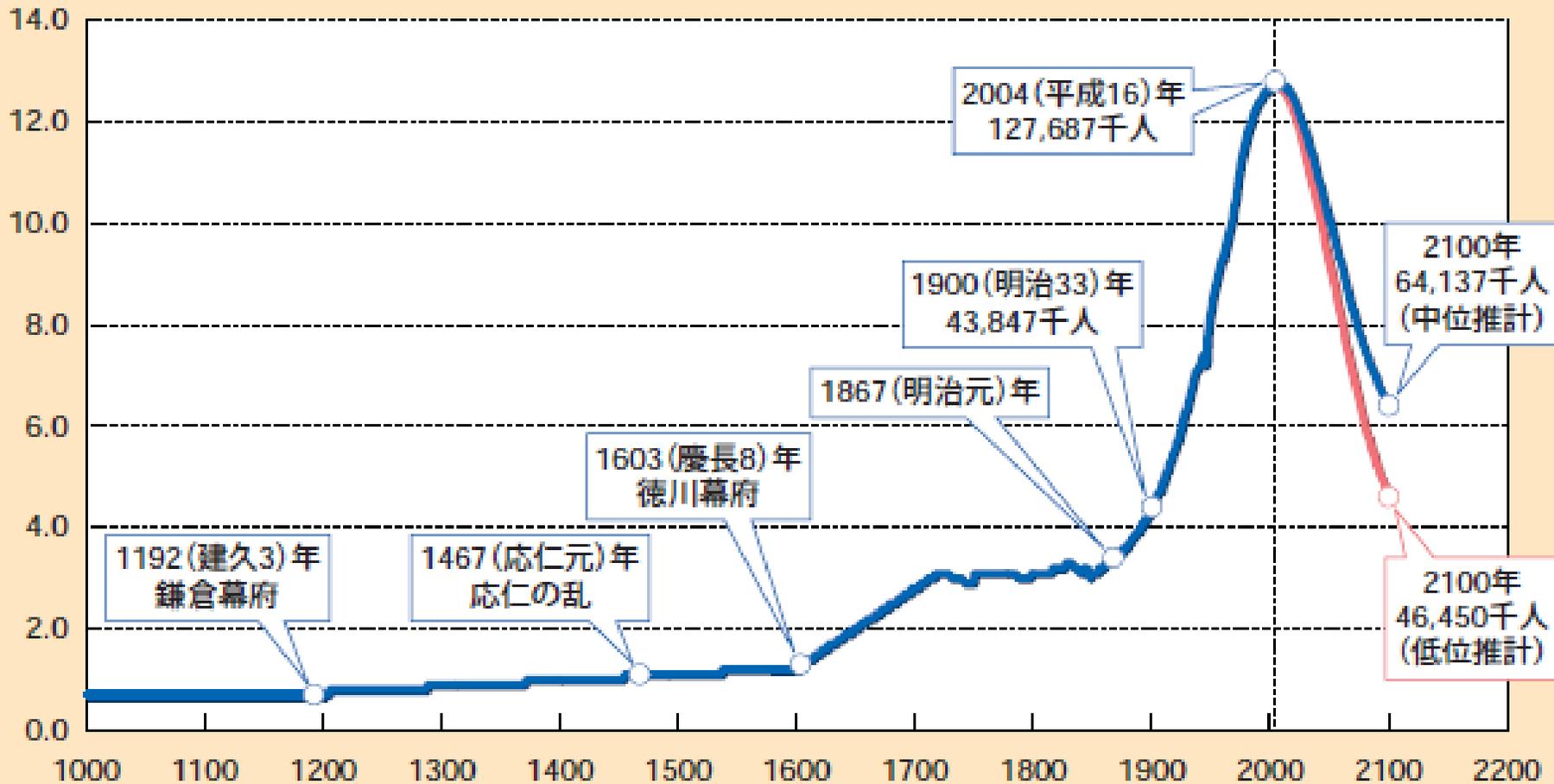
人口が減っていく...



データ出所： 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」

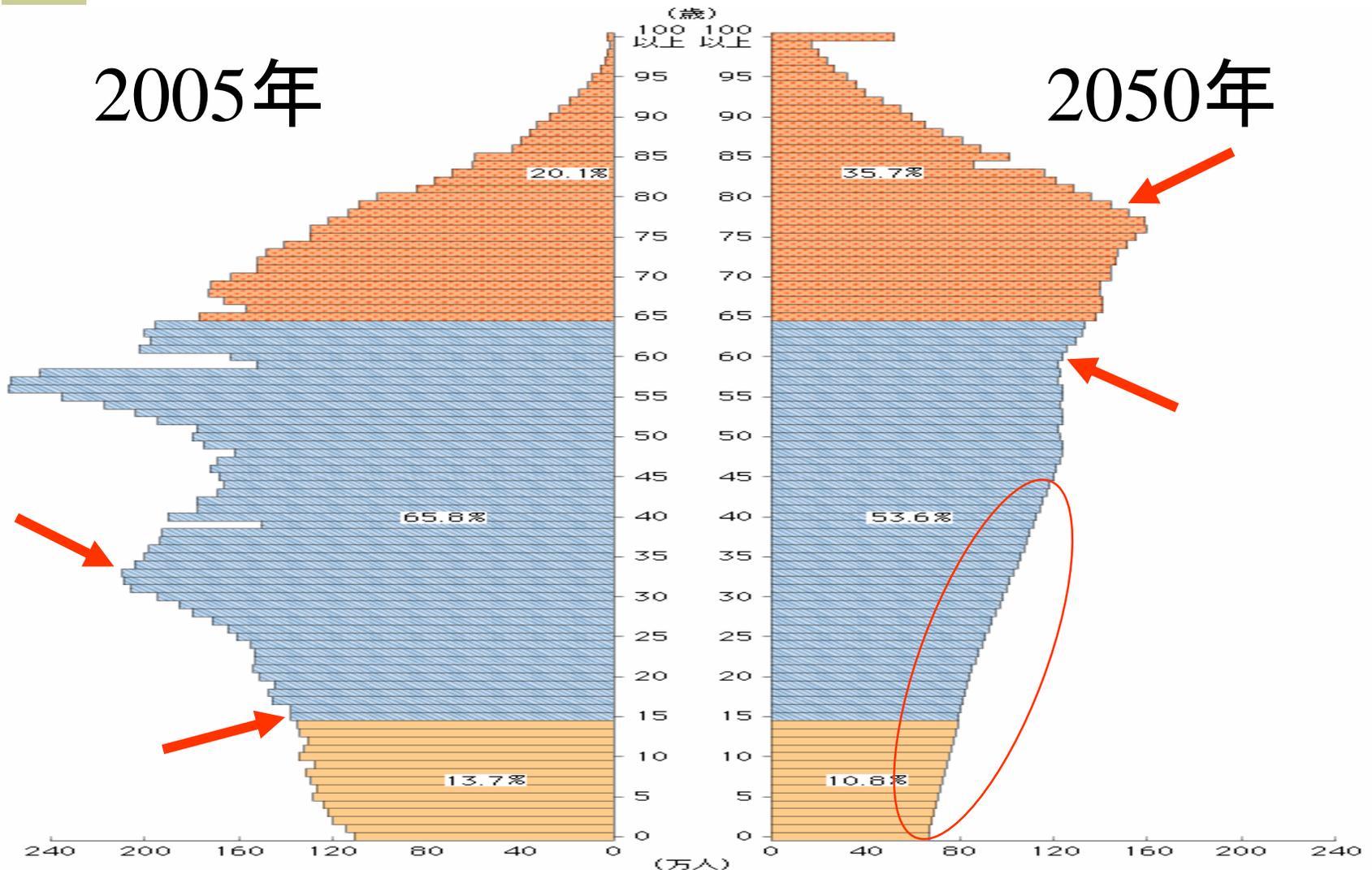
…元に戻るだけ？

人口
(千万人)



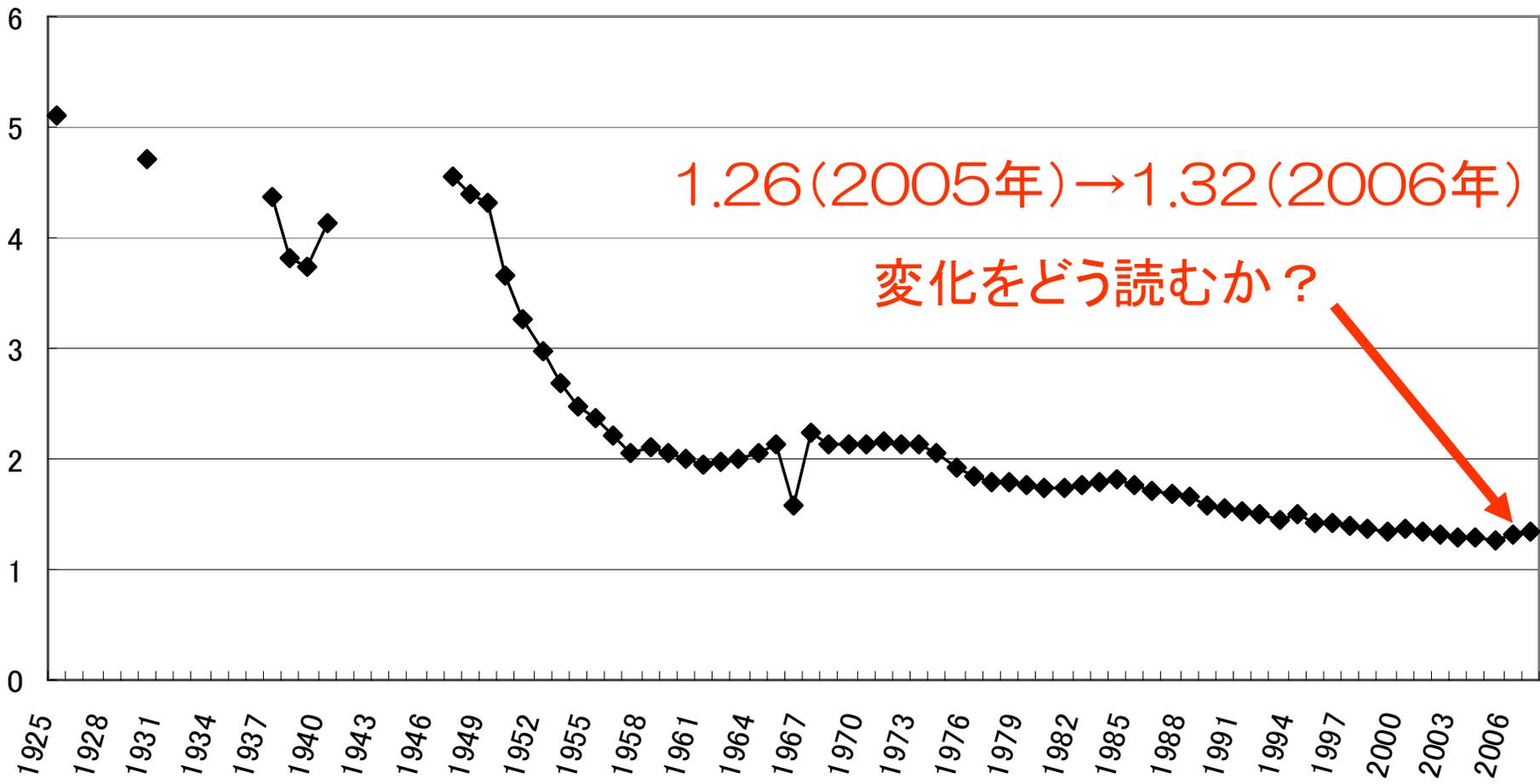
データ出所： 内閣府『平成17年版少子化社会白書』第1-1-20図

2050年の日本では



データ出所： 内閣府『平成18年版少子化社会白書』付録。

→ 一人の女性が一生に産む子どもの数
合計特殊出生率 (1925-2007)



1.26 (2005年) → 1.32 (2006年)

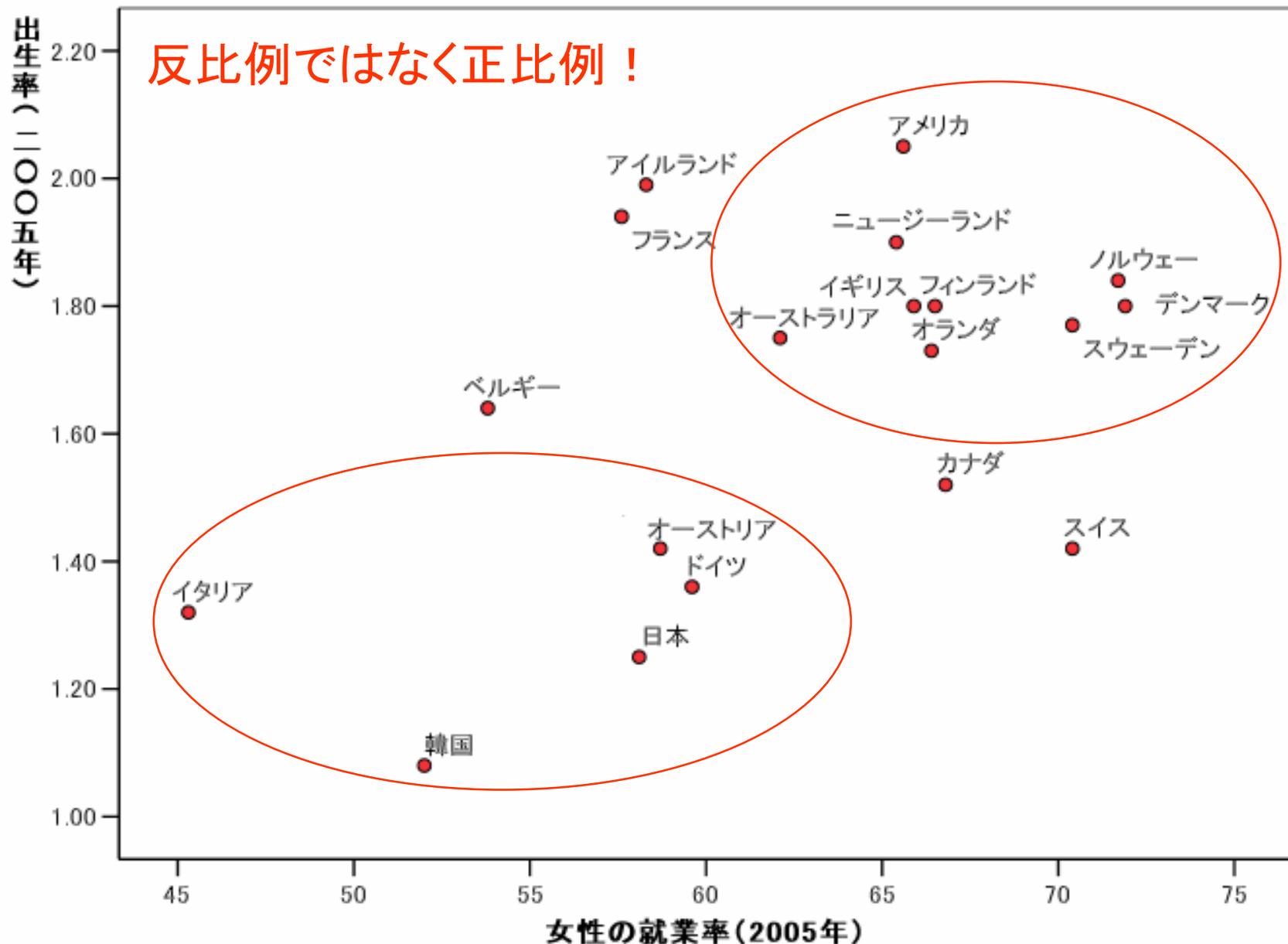
変化をどう読むか?



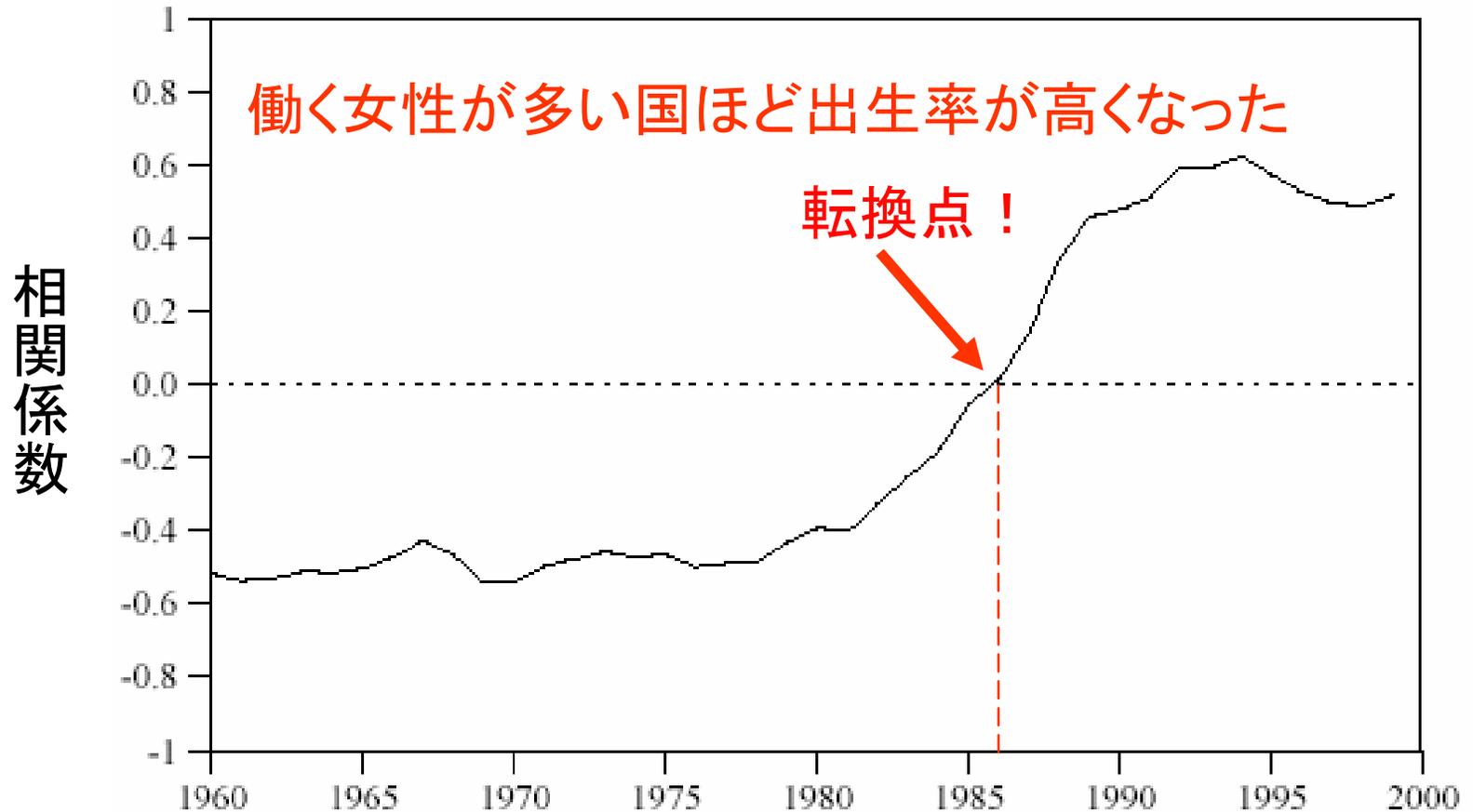
出生率はなぜ低下したのか？

- ◆ 1970年代以降、女性の高学歴化が進み、子育てだけにしぼられたくない女性が増えた。
- ◆ 「しかし近代化は、…行き先が間違っていたからといって次の街角で降りることのできる辻馬車ではない。」(ベック『危険社会』)
- ◆ それでは、女性が高学歴化して仕事をもつと、子育ては不可能になるのか？

女性の就業と出生率



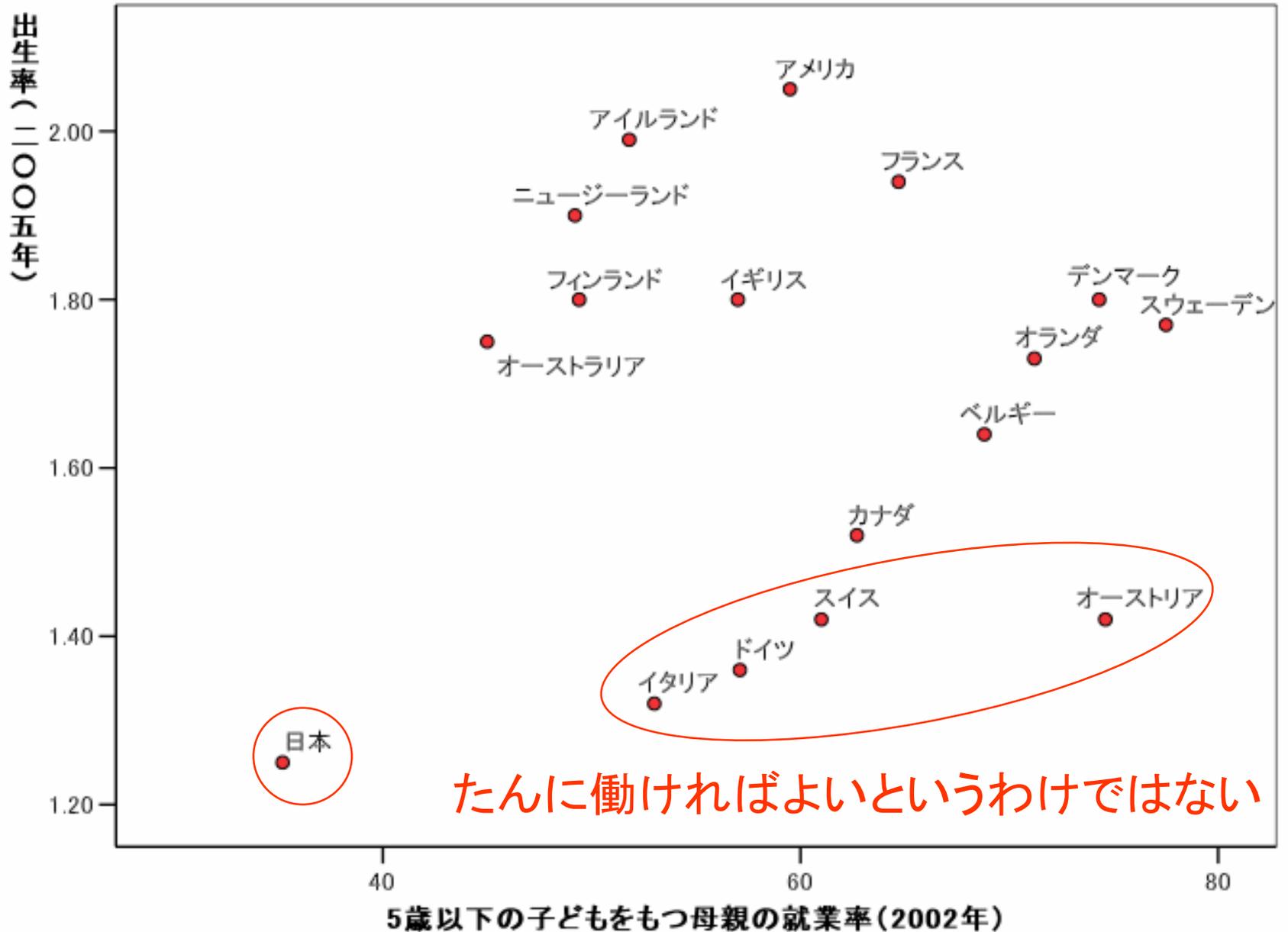
先進諸国における女性就業率 と出生率の相関係数



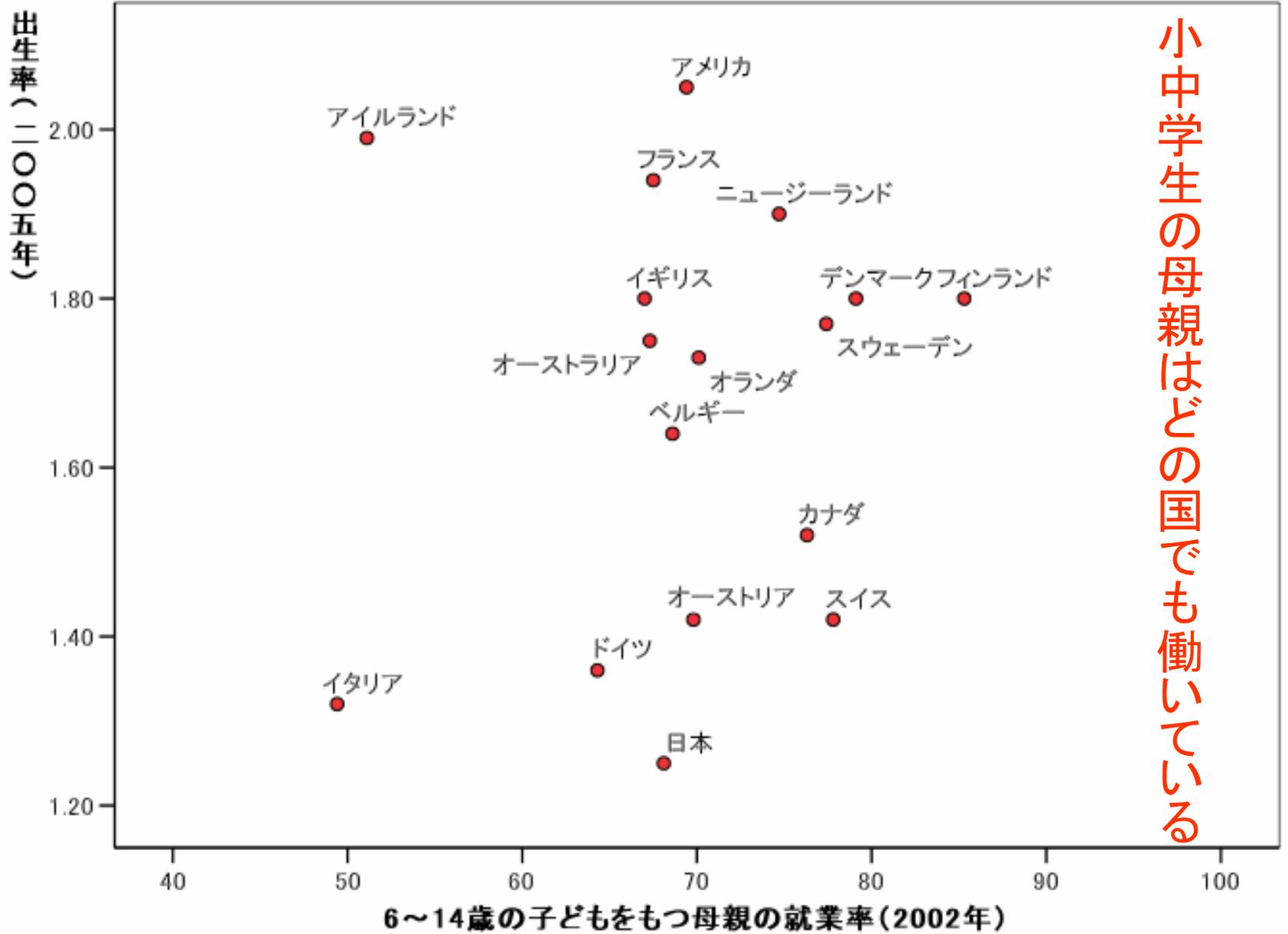
— 1なら反比例、1なら正比例

データ出所: Engelhardt&Prskawetz2002:3

母親(子ども5歳以下)の就業と出生率



母親(子ども6~14歳)の就業と出生率



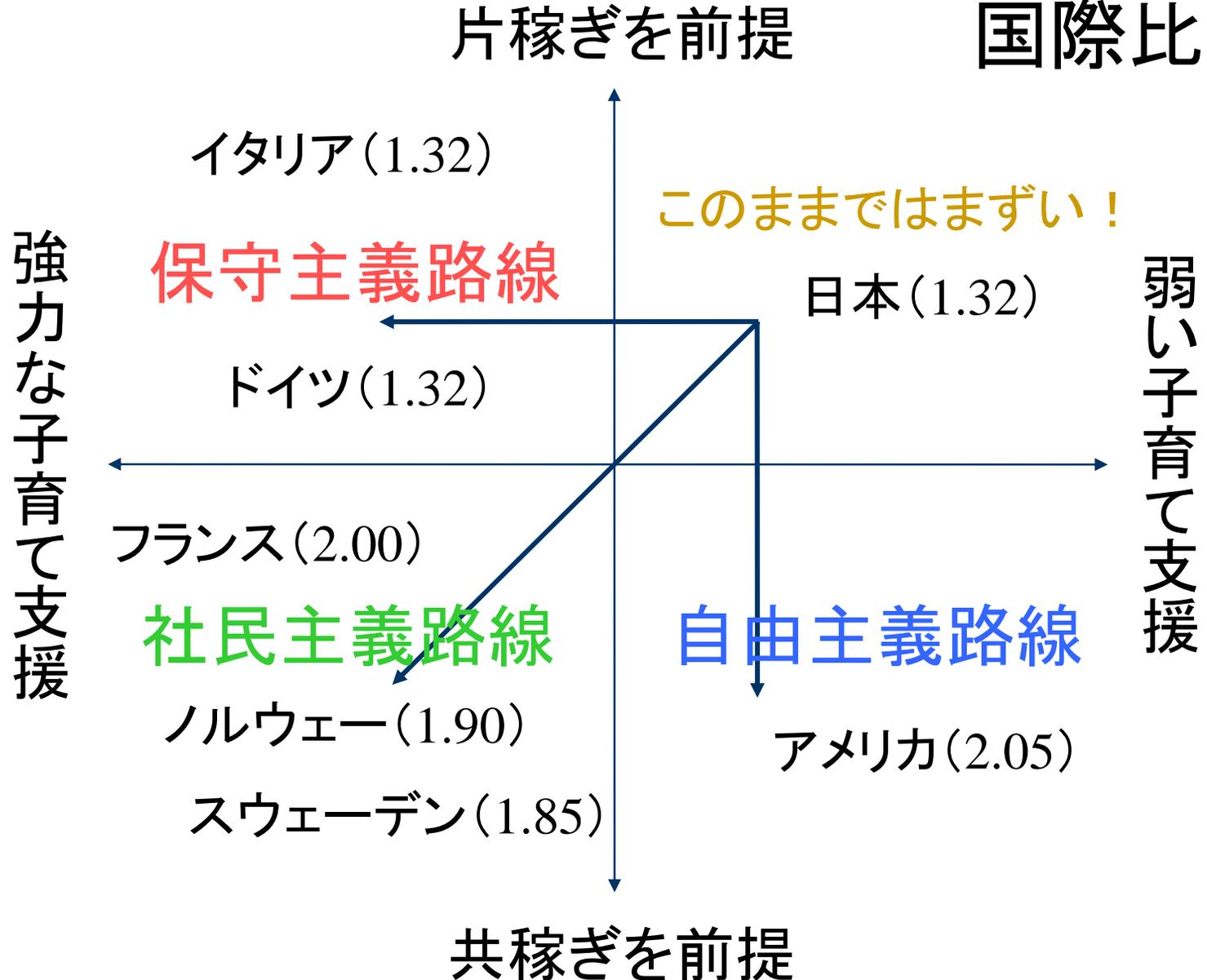
小中学生の母親はどの国でも働いている

ボーモルの法則

「30分のホルン五重奏曲を演奏するには延べ2時間半の労働が必要であるが、もしここで少しでも生産性を上げようなどと試みれば、批評家も聴衆も黙ってはいないだろう」
(Baumol 1967:416)。

⇒製造業と違って、対人サービスは能率が上がらない。低賃金にするか、国が補助金を出すか。

家族政策の 国際比較



カッコ内は2006年の合計特殊出生率

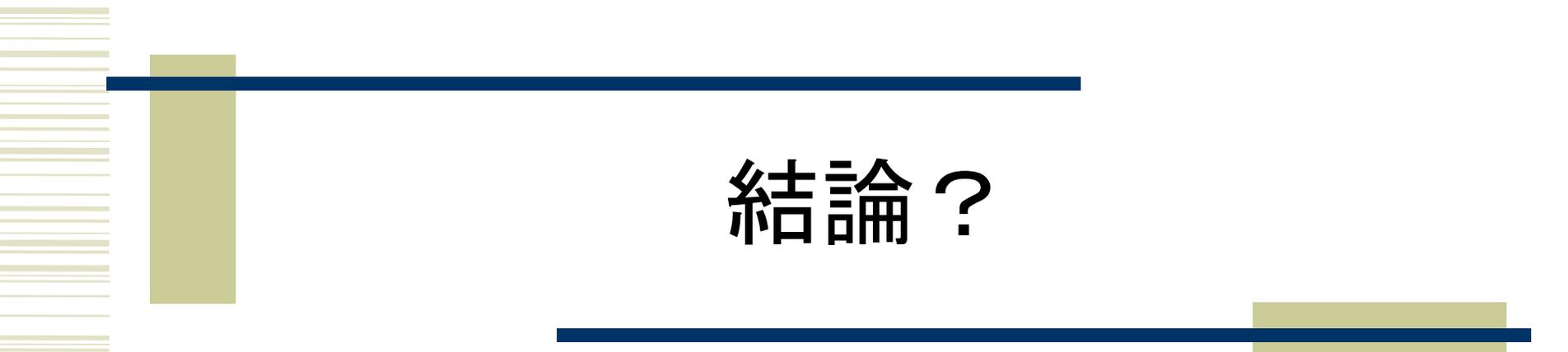
家族政策の3つの路線

- ① **保守主義路線**: 子育てに専念する母親を支援
→ドイツ・イタリアの「出産スト」
- ② **自由主義路線**: 自前でベビーシッターを雇うべし
→アメリカは例外(移民・賃金格差)
- ③ **社民主義路線**: 保育所も育休・家族手当も充実
→日本の進むべき道、と思うが…

ワークライフバランスの国際比較

		日本	フランス	スウェーデン
継続就業の実現	30代女性労働力率	61.6%	79.5%	84.5%
ワークライフバランス	週実労働時間（時間）	43.1	37.18	37.5
	週労働時間50時間以上の労働者割合	28.1%	5.7%	1.9%
	夫の帰宅時間	19時頃以前に帰宅と答えた者の割合 東京22.6%	19時頃以前に帰宅と答えた者の割合 パリ50.4% リヨン61.9%	平均・最頻帰宅時刻 17時頃
夫婦間の家事育児分担	6歳未満児の父の1日あたり家事育児関連時間（カッコ内は育児時間）	48分 (25分)	2時間30分 (40分)	3時間21分 (1時間7分)
両立支援制度の利用	育児休業（全日）取得率（女性）	出産した女性労働者の72.3%	継続就業者の30%（パリ）	就業継続者の97%
	継続就業女性に占める1年以上休業者の割合	約35%	約14%（パリ）	約75%
	復職時の働き方	短時間勤務 18.2%	フルタイム 55% 短時間勤務 35%	フルタイム 38% 短時間勤務 62%
保育サービス	0-2歳児保育サービス利用割合	保育所利用 0歳児 7% 1～2歳児 24%	保育サービス（集団託児所（一時託児所含む）、家庭託児所、保育ママあわせ） 0～2歳児 43% （この他に、2歳児の約3割が幼稚園の早期入学を利用）	保育所・保育ママ利用 0歳児 0.03% 1歳児 45% 2歳児 87%

データ出所： 内閣府『平成19年版少子化社会白書』第1-3-10表。



結論？

続きは社会学研究室で考えよう！